

名古屋の

からくり

山車祭



尾張名古屋の三大祭

# 名古屋が発祥 からくり山車祭の歴史 とされている

からくり山車祭の歴史は江戸時代から始まります。名古屋城下ではお祭が盛んで、中でも東照宮祭、三之丸天王祭、若宮まつりは「名古屋の三大祭」と呼ばれていました。

東照宮祭は「名古屋祭り」とも言われ、尾張藩あげてのお祭でした。

最盛期には神輿や山車など約7,000人もの長い行列が続いたと言います。

東照宮は徳川家康を祀った神社

東照宮祭



「橋弁慶車」  
(江戸末期の様子)

東照宮祭で1620年、「橋弁慶車」が曳き出されたのがからくり山車祭の始まりとされています。これが話題となり、他町内がまねていき、やがて尾張藩の影響と共に各地へ広がります。

## 祭好きの藩主・徳川宗春

尾張藩主は代々、祭を財政支援しており、特に7代藩主・宗春は祭好きとして知られています。

行き過ぎた儉約政策は民を苦しめる。お祭奨励！  
東照宮祭も以前のように規模を大きく、豪華にせよ！

時の将軍・徳川吉宗が儉約政策を進め、他の藩は経済が停滞。その中で尾張藩の名古屋だけが栄えたため、からくり人形職人が京都などから移り住み、からくり文化の発展につながりました。



徳川宗春 (1696-1764)

## からくり山車のしくみと担当



### 屋根の昇降

屋根は昇降可能で、元は名古屋城の門をくぐるためと言われています。現在は電線などを避けるために使われます。

屋根を下げた時



### からくり人形

通常、一番高い上山に大将人形、一段下の前柵にうわやま たいしょう採振りと呼ばれる人形が置かれます。  
まえだな

### 人形方

2階部分で人形の操作を担当。

### 囃子方

1階部分で笛や太鼓のおはやし演奏を担当。



役割によって違う衣装にも注目！

### 楫方

山車の前後に一對ずつあるかじぼう楫棒を持って、山車の取り回しを担当。

数トンもある山車を方向転換したり回転させたりする技は楫方の腕の見せ所です。



## からくり山車王国 名古屋

江戸時代中頃、山車祭の盛り上がりに合わせて、名古屋の城下町で専門のからくり人形師が誕生しました。

やがて名古屋製の人形は他の町の山車にも乗せられるようになり、名古屋はからくり人形の一大製作中心地となっていました。その技術はその後、人形以外にも応用されるようになります。

山車の大半は戦争で焼失してしまいましたが、残ったものは、今でも町内の祭で見ることができます。

現在、全国でからくり人形の乗っている山車200両ほどのうち70%~80%が旧尾張藩地域に集中していることから、名古屋の人々がからくりに熱を上げたことを伺い知ることができます。



幻想的な雰囲気のおまつり

尾張名古屋の三大祭

今に引き継がれる

# 名古屋のからくり山車祭マップ

名古屋市内編

山車の数  

⑦ 比良祭り 10月第2日曜日 (2年に1回)  
西区比良  

旧城下町エリア  
(裏面)

⑥ 牛立天王祭 7月第4日曜日  
中川区牛立町 

⑤ 戸田祭り 10月第1土・日曜日  
中川区戸田1~5丁目  
    



戸田祭り神明社山車



① 大森天王祭 8月第1日曜日  
守山区大森 



有松祭り  
布袋車

② 有松祭り 10月第1日曜日  
緑区有松   

③ 鳴海祭(裏方) 10月第2日曜日  
緑区鳴海町   

④ 鳴海祭(表方) 10月9~16日の間の日曜日  
緑区鳴海町     

## ----- 関連情報 -----

名古屋の歴史文化ガイドアプリ  
(お祭情報、動画、ナビ)

 「なごや歴史探検」アプリ

ダウンロードはこちら→



山車祭についてもっと知りたい

 「あいちの山車まつり」HP

QRコードからサイトへ→



文献で詳しく知りたい

 「名古屋城下の山車行事調査報告書」  
(名古屋市教育委員会文化財保護室発行)

直接観たい

(事前に要確認)

 有松山車会館 (名古屋市緑区)  
名古屋市博物館 (名古屋市瑞穂区)

名古屋の見所を知りたい

 名古屋市公式観光情報「名古屋コンシェルジュ」HP

QRコードからサイトへ→



参考文献 | 「名古屋の祭りと山車」「文化財ガイドブックー名古屋のおもな山車行事ー」文化財名古屋保存活用実行委員会制作

「名古屋城下の山車行事調査報告書」名古屋市教育委員会文化財保護室発行

企画・制作 | 名古屋都市再開発促進協議会 (☎ 052-223-5735)

協力 | 名古屋市教育委員会

# 名古屋のからくり山車祭マップ 旧城下町エリア

名古屋まつり 毎年秋開催

郷土英雄行列なども行う名古屋を代表する祭。旧城下町エリアに残る山車9両が勢揃いし、市庁舎前でからくり人形を披露した後に、栄交差点まで曳行されます。



## できまちてんのうさき 出来町天王祭

6月 第1土・日曜日開催

天王祭はもともと疫病を払うための祭りで、疫病が出やすいとされる初夏に行われます。3両の山車が町内に曳き出され、日が暮れてくると宵まつりの幻想的な雰囲気が楽しめます。2日目には筒井町の山車2両とともに徳川園山車揃えを行います。



### 7 鹿子神車

大将、唐子2体、采振り人形が乗っています。2体の唐子が逆立ちや太鼓を打ち鳴らし、大将が軍配を上げる演技をします。でんでん太鼓の唐子は「お梅さん」と呼ばれ、親しまれています。



### 8 河水車

大将、唐子2体、采振り人形が乗っています。能の「右橋」に由来した獅子頭をつけた唐子が激しく舞い踊る演技をします。このからくりは戦争で焼失したものに似せて作られました。



### 9 王義之車

大将の王義之、唐子2体、采振り人形が乗っています。唐子が別の唐子の肩で倒立する場面は高度な技が必要で、人形方の腕の見せ所です。この山車のお囃子は古出来町独特のものが伝わっています。

## はなぐるましんめいしゃさい 花車神明社祭 (名駅山車揃え)

10月 第2土・日曜日開催

かつて名古屋三大祭の一つとされた三之丸天王祭にゆかりのある3両が曳き出されます。初日の夜にかけて花車神明社に集まり、揃ってからくり演技を奉納します。



### 3 唐子車

大将、唐子2体、采振り人形が乗っています。唐子(中国風の衣装を着た童子)が倒立しながら太鼓を打つ演技をします。華やかな衣装にも注目。



### 4 福祿寿車

大将の福祿寿と唐子2体、幣振り人形が多彩な動きを見せてくれます。七福神のひとつ、福祿寿は南極星の神様とされるため、山車のあちこちに星座が描かれています。



### 若宮まつり

## わかみや 若宮まつり

5月 15・16日開催

かつて名古屋三大祭の一つとされ、約350年の歴史があります。山車は若宮八幡社から本町通を通って那古野神社まで巡行し、からくり演技を奉納します。掛け声とともに山車を回転させる様子は迫力があります。

## つついちょうてんのうまつり 筒井町天王祭

6月 第1土・日曜日開催

2両の山車が互いの社へあいさつに回り、からくりを奉納します。このあいさつをするしきたりを「出合い」と言います。建中寺周辺には屋台も出てにぎわいます。前日の金曜日の宵まつりから始まり、土・日曜日の2日間にわたって開催されます。



### 5 神皇車

大将の神功皇后、武内宿禰、巫女、采振り人形が乗っています。舞いを踊った巫女が錦の衣装をまとった鬼面の龍神に早変わりする様子は必見です。朱塗りの上山や豪華な刺繍が鮮やかな山車です。



### 6 湯取車

大将の安倍晴明と巫女、大鼓打ち、笛吹き人形が乗っています。巫女が「湯取り神事」という儀式の様子を演技します。巫女が釜をかき回すと湯気のように紙吹雪が舞います。1658年に製作された歴史ある山車です。



※数字は山車が保管してある倉庫を示します。